

一人の新しい人は、人を創造した神の定められた御旨を成就する

(金曜日—午前第二の部)

メッセージ 5

一人の新しい人の機能と究極的な完成のために、

神の活動にしたがって労苦して、

キリストの中で完全に成長したすべての信者をささげる

聖書：コロサイ 1:28-29, 3:10. エペソ 4:13-16, 24, 啓 21:2, 10

- I. わたしたちはみな一人の新しい人のために、「一人の完全に成長した人に……キリストの豊満の身の丈の度量にまで」到達する必要があります——エペソ 4:13：
- A. 一人の完全に成長した人は円熟している人です。このために、命における円熟が必要とされています—— 13 節。
  - B. キリストの豊満はキリストのからだであり、このからだには度量を伴う身の丈があります—— 1:23：
    - 1. キリストの豊満はキリストの表現です。からだはキリストの豊満として、キリストの表現です—— 4:13, 1:23。
    - 2. キリストの豊満、すなわち、からだには身の丈があり、この身の丈にはある度量があります。このゆえに、エペソ第 4 章 13 節は、キリストの豊満の身の丈の度量について語っています。
    - 3. キリストの豊満の身の丈の度量にまで到達することは、キリストのからだの満ち満ちた成長と建造に到達することです。それは、からだの建造の満ち満ちた完成に到達することです—— 16 節。
  - C. キリストの豊満の身の丈の度量にまで到達することは、実行上の一（その信仰の一、またキリストを知る全き知識の一）のために必要です—— 13 節。
  - D. わたしたちは、実際における一から（3-6 節）実行における一へと前進し、ついには 13 節で述べられた三つの事柄（一 [the oneness]、一人の完全に成長した人、キリストの豊満の身の丈の度量）にまで到達する必要があります。
- II. わたしたちは一人の完全に成長した人に到達して神の定められた御旨を完成するために、すべての事でキリストの中へと成長し込む必要があります——エペソ 4:15-16, 24：
- A. わたしたちはもはや幼子ではなくなるために（14 節）、キリストの中へと成長し込む必要があります。これは、すべての事でわたしたちの中にキリストを増し加え、ついにはわたしたちが一人の完全に成長した人に到達することです。
  - B. キリストをわたしたちの命とすることは、からだの身の丈の度量を増し加えるためですが、キリストをわたしたちのパーソンとすることは、一人の新しい人を成長させるためです—— 3:17 前半, 4:24：
    - 1. わたしたちがキリストをわたしたちのパーソンとするなら、必ず彼をわたしたちの命とします—— I ヨハネ 5:11-12。
    - 2. わたしたちがキリストをわたしたちのパーソンとするなら、成長して円熟するこ

とができます。

C. わたしたちはみなすべての事で、すなわち、一つ一つの事で、大きな事でも小さな事でも、キリストの中へと成長し込む必要があります——エペソ 4:15 :

1. わたしたちがキリストの中へと成長し込んでいない事がまだ多くあります。それらの事において、わたしたちはキリストの中におらず、キリストの外にいます。
2. わたしたちがみなすべての事でキリストの中へと成長し込むとき、わたしたちはみなキリストの中で一になります。これが宇宙的な一人の新しい人です—— 24 節。

D. エペソ第 4 章 15 節は、わたしたちはかしらの中へと成長し込むと言っています。ここの「かしら」という言葉が示しているように、キリストが増し加わることによってわたしたちが命において成長することは、かしらの下でからだの肢体が成長することであるべきです。

E. 命において成長することは、神の増し加わりによって成長することです。このことは、真の成長が神の増加、神が加えられることであることを意味します——コロサイ 2:19 :

1. 神は永遠で、完璧で、完全です。ですから、神ご自身は成長する必要がありません。
2. からだは、わたしたちの中での神の増し加わり、神の増加によって成長する必要があります：
  - a. 神はわたしたちの中で増し加わる必要があります。すなわち、わたしたちはみな、自分の中で神に増し加わっていただき、増加していただく必要があります。
  - b. 霊的に成長する方法は、神がわたしたちに加えられるようにすることです：
    - (1) わたしたちは、三一の神がわたしたちの中へと分与されることによって、神の増し加わりによって成長します——Ⅱコリント 13:14. エペソ 3:16-17 前半。
    - (2) わたしたちが再生された時、神がわたしたちの中へと入って来ました。そして彼は今、彼ご自身をわたしたちにさらに加えることによって、わたしたちの内側で増し加わりつつあります。
    - (3) このことは、神がわたしたちの存在の中へと加えられるようにすることによって、神の増し加わり、神の増加をもって成長することです。
  - c. わたしたちがキリストから内側に吸収したもの（土壌としてのキリストの豊富の要素）が、わたしたちの中で神の増し加わりとなります——コロサイ 2:6-7。
  - d. わたしたちはキリストで浸透され飽和されて、キリストがわたしたちの存在の中へと造り込まれる必要があります。その時、実際と実行において、キリストは一人の新しい人のすべての肢体、すべての部分となります—— 3:10-11。

F. エペソ第 4 章は、命の成長を通して新しい人が成就されることについて語っています：

1. エペソ第 2 章 15 節で、わたしたちは新しい人の有機的な創造を見ます。第 4 章 13 節から 16 節で、わたしたちは新しい人の機能の成就を見ます。
2. 有機的な面において完全な新しい人は、正しく機能するために、命の成長を通して成就される必要があります—— 13, 15, 24 節 :

- a. 新しい人は正しい養いを受けることを通して成長すればするほど、ますます正常に機能するようになります。
- b. 15 節のキリストの中へと成長し込むことは、24 節の新しい人を着ることと等しいのです。

3. わたしたちは団体の新しい人の成長のために、十字架につけられ復活し昇天し下って来たキリストを経験する必要があります。それは、すべてを含むキリストがわたしたちの中へと造り込まれて、わたしたちのすべてとなるためです。その時、有機的な面において完全な新しい人が、機能において完全になります—— 3:16-17 前半、4:13, 24。

G. すべての事でキリストの中へと成長し込むことは、宇宙的な一人の新しい人の実際的な出現のためです—— 24 節。

### III. 一人の新しい人の実際的な出現のために、わたしたちは労苦し奮闘して、キリストの中で完全に成長したすべての聖徒をささげる必要があります——コロサイ 1:28-29 :

- A. パウロの務めは、キリストを人の中へと分与し、彼らがキリストの中で円熟して完全な成長へと至ることによって、完成され、完全にされるようにすることでした。
- B. わたしたちが罪人に福音を宣べ伝えることと聖徒たちと交わることの目標は、キリストを彼らの中へと供給して、彼らがキリストの中で円熟し、キリストの中で完全に成長してささげられることです。これは、新しい人の成長のためです—— 28 節。
- C. 人をキリストの中で完全に成長させてささげることは、極めて困難な働きです。この働きは、労苦し、神の活動にしたがってわたしたちが奮闘することによってのみ達成することができます—— 29 節。
- D. パウロが、奮闘して、人をキリストの中で完全に成長させてささげることに于行なったことは、聖徒たちを成就してキリストのからだを建造するという労苦の模範です——エペソ 4:11-16 :

- 1. 主が彼の回復の中で願っているのは、キリストのからだのすべての肢体を成就することを回復することです—— 11-16 節。
- 2. 神の意図は、賜物のある人が行なう事を、すべての信者が行なうことができるようにすることです。これが、聖徒たちを成就することに関するパウロの思想です—— 11 節。
- 3. 主は、聖徒たちを成就することを回復して、キリストのからだのそれぞれの部分はその度量に応じた活動によってその務めの働きを行ない、キリストの有機的なからだを建造することを願っています—— 12, 16 節。

### IV. 一人の新しい人が再生を通してわたしたちの霊の中で創造された時、器官に関してはすべてそろっていました。しかしながら、新しい人はまだ機能において完全ではなかったため、成長と更新の必要があります——コロサイ 2:19、3:10、エペソ 4:11-16, 23-24 :

- A. 新しい人の成長は、新しい人の機能をもたらします。
- B. 新しい人が成長と更新に欠けているなら、機能に欠けています。
- C. 一人の新しい人は、成長し、発展する必要があります。その結果、一人の新しい人は機能において完全になります。

V. 新エルサレムは、宇宙的な一人の新しい人の最終の究極的完成です——啓 21:2, 10 :

- A. 神の目標は、宇宙的な一人の新しい人を持つことであり、それは最終的に、新エルサレムにおいて究極的に完成します。
- B. わたしたちは新エルサレムにいる時、宇宙的な一人の新しい人の生活を享受します。
- C. 今日わたしたちは、思いを上にあるものに置くことによって、また霊の中の新しい人に自由な道を与えてわたしたちの全存在に広がらせることによって、一人の新しい人の究極的完成の前味わいを持ちます——コロサイ 3:1-2, エペソ 4:23-24。

務めの書物からの抜粋 :

キリストの中で完全に成長したすべての人をささげる

パウロは栄光の望みとしてわたしたちの中に住むキリストについて語って、コロサイ人への手紙第 1 章 28 節で言います、「わたしたちはこのキリストを告げ知らせ、知恵を尽くしてすべての人を戒め、すべての人を教えています。それはわたしたちが、キリストの中で完全に成長したすべての人を、ささげるためです」。「完全に成長した」と訳されたギリシャ語の言葉はまた、「円熟した」、「完全な」、「完成された」とも訳すことができます。パウロの務めは、キリストを人の中へと分与し、彼らがキリストの中で円熟して完全な成長へと至ることによって、完成され、完全にされるようにすることでした。しかしながら、今日の多くのクリスチャンの働き人には、キリストの中で完全に成長したすべての人をささげるといふ何の観念もありません。彼らの働きの目標はこれ以外のものです。しかしわたしたちは、パウロが持っていたのと同じ目標を持たなければなりません。

福音を宣べ伝えるときでさえ、わたしたちの目標は、命を分け与えて、キリストの中で円熟し、完全に成長した人をささげることであるべきです。未信者に福音を宣べ伝え、キリストを供給し、彼らが主を受け入れるのを助けるとき、わたしたちの目標は単に、彼らが火の池から、また神の罪定めから救われるべきであるということだけではありません。わたしたちの目標は、彼らが神の赦しを経験することだけではありません。それは、キリストを彼らの中へと供給して、彼らがついにキリストの中で完全に成長してささげられることです。もしわたしたちが福音を宣べ伝えるときにキリストを人に分け与えることに失敗するなら、わたしたちの福音の宣べ伝えは神の標準に達しないでしょう。わたしたちが語るすべての人の中へと、キリストが注入されなければなりません。キリストを分け与えることが、わたしたちが福音を宣べ伝える目標であるべきです。

わたしたちは聖徒たちとの交わりにおいても、同じ目標を持つべきです。わたしたちが聖徒たちと接触するとき、わたしたちの目標は、キリストを彼らの中へと供給し、彼らがキリストの中で円熟することであるべきです。

それでは、キリストの中で円熟した人をささげるに関するいくつかの事柄を考察しましょう。

聖徒たちの分け前としての

キリストを供給することによって

わたしたちはキリストの中で完全に成長した人をささげようとするなら、聖徒たちの分け前としてのキリストを彼らに供給しなければなりません (12 節)。わたしたちが供給するキリストは、すべてを含む方、神のエコノミーの中心性と普遍性でなければなりません

(15、18-19, 27 節. 2:4, 9, 16-17. 3:4, 11)。もしわたしたちがキリストを十分に経験していないなら、キリストを人に供給するのは難しいことがわかるでしょう。例えば、もしわたしたちがキリストによって生きることを経験していないなら、他のだれかがキリストによって生きるのを助けることはできません。しかし、わたしたちが日常生活の中でキリストを生き、キリストを成長させ、キリストを生み出すなら、人と接触するとき、自然にキリストを人の中へと注入するでしょう。わたしたちはキリストをわたしたちの命またパースンとすればするほど、ますますキリストを人に供給することができるでしょう。キリストを経験し、彼によって生きる者となるなら、わたしたちは人に影響を与えて同じことを行なわせるでしょう。わたしたちは、キリストをわたしたちの良き地として享受し、彼の上で労苦し、彼の中で生き、彼の中で歩き、彼の中で存在する必要があります。わたしたちがそのような人であるなら、わたしたちが経験し、わたしたちが生きているキリストを、人の中に浸透させるでしょう。主の回復の中でわたしたちが必要とするのは、さらに労苦して人を召会生活の中にもたやすことだけではありません。わたしたちはキリストの豊富を人の中に供給して、彼らを成長させ円熟させる必要があります。このためには、わたしたち自身がキリストを、聖徒たちの分け前としてさらに多く経験する必要があります。

キリストの計り知れない豊富を供給することによって  
召会を建造する

第二に、わたしたちはキリストの中で完全に成長したすべての人をささげるために、キリストの計り知れない豊富を供給して、召会を建造し、神の永遠の定められた御旨を成就する必要があります (エペソ 3:8-11)。すべての人が、良い兄弟、良い姉妹と考えられていても、なおキリストの豊富に欠けている可能性があります。わたしは旅行していて聖徒たちと接触する時、すべての人がとても良い兄弟、姉妹と考えているのに、日常生活の中でキリストの豊富に欠けている多くの人に会いました。主がわたしたちの内側を呼び覚まして、キリストの中で豊富になることを熱望させてくださいますように。わたしたちは祈る必要があります、「主よ、わたしは良く見えても、キリストの豊富に関しては貧しい者になりたくありません。主よ、召会を建造するために、わたしをキリストの豊富で満たしてください」。

わたしは、生活がキリストの豊富に特徴づけられている聖徒たちのゆえに、主に感謝します。そのような兄弟姉妹は透明です。その反対に、キリストの豊富に欠ける人たちはあいまいで、完全に透明さに欠けています。しかしキリストの豊富を持っている人たちは、水晶のように透明です。あなたがあることを交わりの中で彼らに持って来るときはいつも、その問題はあなたに明確になります。なぜなら、彼ら自身がとても透明であるからです。キリストの豊富を享受する人たちは、水晶のように透明になります。わたしたちはキリストの豊富を経験すればするほど、ますます透明になるでしょう。わたしたちがみな、キリストの中で豊富であり完全に透明な者になることを願いますように！ わたしたちがこう祈りますように、「主よ、わたしを、あなたの命の中で豊富であり、透明であるからだの肢体にしてください。良くあっても、キリストに欠ける肢体であることから救ってください」。

キリストの中で豊富である者だけがからだを建造し、神の永遠の定められた御旨を成就

することができます。わたしたちは、わたしたちの間にまだあまり多くの建造がないことを、承認しなければなりません。わたしたちは召会の建造よりも、自分の個人的な靈性や成長に関心があるかもしれませぬ。もしわたしたちがキリストに欠け、透明さに欠けるなら、召会の建造にほとんど関心を持たないでしょう。しかし、わたしたちがキリストの豊富で満たされ、こうして透明になるなら、召会を建造して神の定められた御旨が成就されることに深く関心を持つでしょう。

神の言葉を完成することによって

わたしたちがキリストの中で完全に成長した人をささげるのは、キリストと召会の満ち満ちた啓示を伴う神の言葉を完成することによります（コロサイ 1:25-27）。わたしたちはキリストの中で円熟した人をささげるために、彼らが神の奥義としてのキリストと、キリストの奥義としての召会に関して、神の言葉を完成することを助けなければなりません。しかしながら、わたしたちの状態を考えるなら、わたしたちの多くはこのように神の言葉を完成することができないことを認識するでしょう。こういうわけで、わたしたちがかき立てられて主を追い求めるようにと、わたしは負担を持つのです。わたしたちは彼に飢え渴き、彼を追い求めて、彼の豊富で満たされるまでになる必要があります。わたしたちはこう祈る必要があります、「主イエスよ、わたしたちは無関心になり、なまぬるくなることを願いません。わたしたちはあなたに対して絶対的であり、あなたを極みまで追い求めることを切望します」。そのように主を追い求めるなら、わたしたちはキリストと召会に関してさらに多くを見るでしょう。しかし、もしキリストの豊富に欠け続けるなら、わたしたちは自分の経験の中に神の言葉を完成することを持つことはないでしょう。ですから、キリストと召会に関する神の言葉を完成するために、わたしたちが祈り、キリストの上で労苦する切迫した必要があるのです。

神の奥義としてのキリストを供給することによって

第四に、わたしたちは神の奥義、すなわち、神の具体化としてのキリストを供給する必要があります（2:2, 9）。わたしたちはいかにキリストが三一の神の具体化であるかを、自分の経験から人に分け与える必要があります。わたしたちは、どのように日々キリストを父、子、靈として経験しているかを、証しすることができる必要があります。わたしたちはキリストを持っているので、御父をも持っています。わたしたちはキリストの中にいるので、その靈の中にもいます。わたしたちの内側で活動するその靈は、実はキリストご自身です。日ごとにわたしたちは主と一つ靈となり、彼がわたしたちと一であることを経験すべきです（I コリント 6:17）。わたしたちはどこにいても日常生活のあらゆる面で、主と一つ靈であることを、ますます経験しなければなりません。これは教理や理論であるべきではなく、わたしたちの実際的なクリスチャン生活でなければなりません。

わたしの務めに関して、わたしはしばしばこのように祈ります、「主よ、わたしが語る時、恵みを与えて、あなたと一つ靈にならせてください。主よ、あなたがわたしの語る中で語ってくださるようにと祈ります。主よ、わたしはあなたがわたしと一つ靈であることを信じます。しかしわたしが御言を供給する時、わたしがあなたと一つ靈であることを求めます」。この務めが持つすべての衝撃力は、そのような主との一から来ます。



主は三一の神の具体化です。これは、御父のすべての豊富が御子の中に具体化されていることを意味します。さらに、御子はその霊として完全に実際化されており、その霊は今やわたしたちと一つ霊です。パウロがコリント人への第一の手紙第 6 章 17 節で言うように、「主に結合される者は、主と一つ霊になります」。主と一つ霊であるという事柄は、わたしたちにとって単なる教理であるべきではありません。その反対に、それはわたしたちの日常の、実際的な経験でなければなりません。わたしたちは経験の中で、三一の神の具体化である主と一つ霊であるとは何であるかを知らなければなりません。わたしたちが神の具体化としてのキリストを経験するなら、キリストを人に、彼らの養いと豊富のために供給することができるでしょう。わたしたちがこのようにキリストを人に供給する時、彼らはキリストの中で成長するでしょう。成長は食べることによって来ます。わたしたちが神の奥義として供給するキリストを、人が常食とするなら、彼らはキリストの中で成就され、円熟するでしょう。

キリストの奥義としての召会を供給することによって

わたしたちはキリストの中で円熟した人をささげようとするなら、キリストの奥義としての、すなわちキリストの表現としての召会を供給しなければなりません（エペソ 3:4, 1:23）。サタンはこうかつにも、多くの追い求めるクリスチャンに召会の事柄を避けさせようとしてきました。

わたしと T・オースティン-スパークス兄弟との経験は、ある人たちがいかにかたくに召会の事柄を避けているかを例証します。わたしたちの招待で、彼は 1955 年に台湾に来ました。彼がキリストについて供給した時、わたしたちは共にすばらしい時を持ちました。彼は、わたしたちがキリストについて見てきたことに、はっきりと共鳴することができました。1957 年に彼は二度目に台湾に来ました。この訪問で、彼は召会の立場に消極的な方法で触れました。1958 年、わたしは彼の招待を受けて英国にいた彼を訪問しました。わたしたちは共にいた間、召会について多くの長い会話をしました。しかしながら、彼はわたしの思いを変えることはできませんでしたし、わたしも彼の観念を変えることができませんでした。彼は力を尽くして召会の話題を回避しようとしてしましたが、わたしの概念は、わたしたちは召会の建造のために労苦しなければならないということでした。彼の目的は、わたしたちが召会の立場を放棄すべきであることを納得させることでした。しかしわたしは彼に、召会の立場がなければ、わたしたちが実際的に召会を持つことは不可能であると指摘しました。スパークス兄弟は、自分は召会に反対しているのではないことを、わたしに確信させました。彼は続けて、彼の務めの初期に、招かれてエジンバラで語ったと告げました。彼がキリストについて語ると、集会所には人が群がり、聴衆の反応はとても良かったのです。しかし彼が召会について語ると、人数が減りました。これは彼に、召会について語ることは自分にとって益にならないと感じさせたのです。

わたしはさらに進んでスパークス兄弟に、わたしたち両者が主のからだに関して見てきた原則を、どのように実行することができるのかと尋ねました。彼は、これらの原則を宗派では実行することができないと認めました。しかし彼は、それらを召会の正当な立場でのみ実行することができることを、認めようとしませんでした。むしろ、彼は、召会は多くの祈りによって、その霊を通してのみ生み出されることができるという事実を強調しま

した。そこでわたしは彼に言いました、「あなたは台湾島のとても多くの召会が、すべて祈りによって、その霊を通して出現したのではないと思うのですか?」。わたしは彼に、一組の聖徒たちが召会に関して祈った後、何をすべきであるかと尋ねました。やはり彼は、彼らが一の立場にある召会の立場を取るべきであることを認めようとしませんでした。彼はただ、彼らが行なうどの行動も、その霊からであることを確信する必要があると言うだけでした。これが、召会についてのわたしたちの会話の結末でした。

わたしは力を尽くして、召会に関して彼を納得させようとし、彼は力を尽くして召会を避けようとはしました。結局、わたしたちは双方とも自分の立場を変えようとはしませんでした。

今日、キリストの表現としての召会に関して、戦いが激しく続いています。敵のこうかつさのゆえに、大部分のキリスト教書店は霊性についてのニー兄弟の書籍を売りますが、召会についての彼の書籍は売りません。しかしながら、クリスチャンは召会生活がなければ、完全に成長することはできないのです。霊的な事柄に関するニー兄弟の書籍は長年、世界中のクリスチャンに歓迎されてきました。しかしこれらの本の普及は、キリスト教の状態をあまり改善させませんでした。召会生活がなければ、人がニー兄弟の書籍から受けた助けは結局、漏れていきます。なぜなら、召会生活が唯一、この助けを保つ正当な器であるからです。ある人たちに対して、ニー兄弟による霊的書物は大部分、新しい教理的な観念を与えます。神の定められた御旨を成就するためにはあまり益になっていません。主は、ただ霊性を追い求めるだけで、正常な召会生活にあずからない人たちを欲しておられるのでしょうか? 絶対に違います! 召会を離れて、神の定められた御旨が成就されることはできません。わたしたちはこのことを認識しているので、召会に関する主の負担が重くわたしたちの上にのしかかるのです。わたしたちは神の永遠の定められた御旨を成就するために、召会生活を実行する必要があります。わたしたちはまた忠信になって、キリストの奥義としての、すなわちキリストの表現としての召会を供給する必要があります。

主の願いはからだ、召会を持つことです。彼は名ばかりの召会を欲しておられません。彼は実行上の召会を欲しておられます。召会生活が実際となるためには、地方召会がなければなりません。これは、「召会の実行的表現」という書で明らかにされています。今日、召会の実行的表現は、ただ地方召会の中にあり得るのです。ああ、わたしたちがみな、キリストの奥義としての、彼の表現としての召会を供給することを学びますように! それは、人がキリストの中で完全に成長してささげられるためです。

ある人たちは、召会に関する務めには前途はない、なぜなら、それに対する反対が大いに拡大し、強烈であるからであると主張しました。もしこの務めが人の働きにすぎないなら、確かに前途はありません。しかし、この務めが主の回復の中の務めであるなら、前途は輝いています。人が召会について供給しないようにとわたしたちに勧告すればするほど、ますますわたしたちは忠信になって、召会について供給しなければなりません。わたしたちは大胆に、また忠信になって、かしらであるキリストについて語るだけでなく、彼のからだである召会についても語るなければなりません。わたしたちは今日のキリスト教に追従してはなりません。その反対に、わたしたちは純粋な御言に従って、キリストの奥義としての召会を供給しなければなりません。



命としてのキリストを彼の肢体に供給することによって

最後に、わたしたちは命としてのキリストを彼の肢体に供給する必要があります。それは、彼らが彼によって生き、彼と共に成長して円熟に至るためです。コロサイ人への手紙第3章4節は、キリストはわたしたちの命であると言っており、ヨハネによる福音書第6章57節、第14章19節、ガラテヤ人への手紙第2章20節で、わたしたちは彼によって生きる必要があることを見ます。その時、わたしたちは彼と共に成長して円熟に至るでしょう（エペソ 4:15, 13）。

キリストの中で完全に成長した人をささげることを願うなら、わたしたちはこのメッセージで考察してきたすべての事柄を、彼らに供給しなければなりません。信者たちは何と、神のエコノミーに関するすべての事を注入される必要があることでしょうか！ わたしたちが忠信になってこれらの極めて重大な点を供給するなら、キリストの中で完全に成長した人をささげることができるでしょう。（コロサイ人への手紙ライフスタディ（1）、第16編）